

Ⅲ 飼料作物の栽培方法  
作物名 ソルガム

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病害虫・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
サイレージ・青刈	散播 又は 条播 40～75cm	2～3	総量	23	15	21	出穂期 ～ 糊熟期 2回刈 (8～10t/10a)	1. 播種適温(気温)17～20℃、生育適温30℃前後 2. 初期生育が遅く雑草の覆圧に注意。 基本的には耕種的な雑草防除雑草の多い圃場では薬剤防除 3. 転作田では湿害に留意。 特に生育初期の滞水は生育を阻害するので排水対策を講ずる。 4. 極端な生育不良が見られる場合は土壌分析を実施する。	1. 基準量の外に堆肥1.5t～2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. 青刈利用の場合は、基肥の窒素10kgを元肥5kg、10葉期5kgに分施してもよい。	1. 若い茎葉は、家畜に有害な青酸含量が高いので、草丈1m以上で刈取る。 2. 窒素多施用となつたものは硝酸態窒素中毒が危惧されるので刈り取りを遅らせ熟期を進ませて刈取る。 3. 生育初期に茎葉が赤褐色のアントシアンが発生して枯死、生育不良になる圃場は、リン酸欠乏が考えられるので、土壌分析してリン酸欠乏の場合は水溶性リン酸肥料の重焼リン、過リン酸石灰等を元肥に施用する。他の原因として病気、排水不良など不明な点もあるので他の草種を栽培する。	1. 防除薬剤 ・77°ラムシ→スミチオ乳剤・粉剤 2. 除草剤 ・畑地1年生雑草→ゲザノフロアブル、ゲザノリムフロアブル ※農薬散布時は下記の点に注意しよう！！ ①散布量が多くなりすぎないよう ②風の弱いときに風向に気を付けて散布する。 ③細かすぎると散布粒のノズルは使わないようにし、散布圧力を上げすぎないようにする。 ④タンクやホースは洗いがれないように洗っておく。 ⑤境界区域では農薬を散布しない。 ⑥まわりの作物をネットやシートなどで遮蔽したり一時的に覆う。
			基肥	10	15	10					
			追肥	13	—	11					
			5～6葉期 刈取後	(6) (7)		(5) (6)					





作物名 とうもろこし

利用目的	播種方法		播種量 (kg/10a)	施肥成分量 (kg/10a)			收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病虫害・雑草防除
	播種方法	播種量		成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>					
ホ ー ル ク ロ ッ プ サ イ レ ー ジ	点播 畦幅 66~77cm 株間 15~25cm	2~3	総量	16	15	15	糊熟期 ~ 黄熟期 (6~8t/10a)	1. 平均気温10℃以上になつてから播種(発芽最低気温6~8℃、最適温度25~27℃) 2. 10a当たりの目標株数 早生 8,000~9,000本 中生 7,000~8,000本 晩生 6,000~7,000本 程度を標準とする。 3. 種粒の大きさを播種量を加減する。 4. 畦幅は刈り取り機械体系に合わせて決める。 5. 鳥害防止対策 6. 雑草の多い圃場は除草剤を使用する。 7. 転作田では生育初期の湿害は生育を阻害するので排水対策を講ずる。	1. 基準量の外に堆肥1.5t~2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. ふん尿の多年連続圃場では、土壌分析の結果をふまえた施肥設計が必要。特に加里の施用量に留意する。	1. 栄養収量を高めるためには黄熟期刈が望ましい。	1. 雑草防除は、耕種的防除が基本。 2. 雑草の多い圃場では除草剤を使用する。 3. 防除薬剤 ・ネリムシ→ダク47ジノ粒剤5 4. 除草剤 ・イネ科雑草→ラッソ-乳剤 ・畑地1年生雑草→ゲザノフロアブル、エコトップ乳剤、ゲザノフロアブル、ワソル-7乳剤 ・イネ→ベノル、カト乳剤
		播種期間 3月下旬 ~ 8月上旬	基肥	10	15	10					

作物名 栽培ヒエ

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病虫害・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
乾草・サイレージ	散播	3～4	総量	10	15	10	出穂期 1回刈 (5～6t/10a)	1. 播種適温は15℃以上 2. 最適な覆土深は5～6cm 覆土が浅くなると発芽率が低下するので注意が必要。 3. 耐湿性に優れるが、冠水条件下では生育が劣るので注意が必要。	1. 基準量の外に 堆肥1.5～2t、苦土石灰100kg程度を施用。	1. 地際から10cm程度の高さで刈り取る。 2. 止葉抽出前に高刈りを行うことで2番草の収穫が可能。	1. 病虫害防除が必要な場合は県防除基準による。
			基肥	10	15	10					
	播種期間	2回刈りを行う場合									
			総量	15	15	15	1番草 止葉抽出前				
			基肥	10	15	10	2番草 出穂期				
			追肥	5	—	5	2回刈 (7～8t/10a)				

作物名 ギニアグラス

利用目的	播種		種播種量 (kg/10a)	施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病害虫・雑草防除
	播種方法	播種量		成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
青刈・乾草	散播	1～1.5	総量	17	10	16	伸長期刈 1m程度	<p>1. 播種適温は平均気温18℃前後。</p> <p>2. 発芽率を上げるため、休眠覚醒処理としてジベレリン処理が有効。 (ジベレリン 100mgを水1ℓに溶かし、種子を一昼夜浸漬する。)</p> <p>3. 碎土、整地はていねいに行う。</p> <p>4. 覆土は2cm以上にならないように浅くし、強く鎮圧する</p>	<p>1. 基準量の外に堆厩肥1.5t～2t、苦土石灰100kg程度を施用。</p> <p>2. 施肥は基肥と刈り取り後の追肥に分施。</p>	<p>1. 地際から10cmの高さで刈り取る。</p> <p>2. 刈り取りの間隔を長くすると高草丈による倒伏、刈遅れによる茎の硬化がおこるので注意が必要。</p> <p>3. 機械作業による株の損傷に弱いので、機械作業の運行回数を極力抑えること</p>		
	条播	(発芽率により、播種量を加減する。)		10	10	10						2回刈 (6～8t/10a)
	畦幅30～60cm	コート種子 2～3		7	0	6						
	播種期間	4月下旬～6月中旬										



作物名 えん麦

利用目的	播種		播種方法 (kg/10a)	施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病虫害・雑草防除
	播種時期	播種量		成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
ホ ー ル ク ロ ッ ブ サ イ レ ー シ	条播	5～6	総量	16	15	15	乳熟期 ～ 糊熟期 1回刈 (4～6t/ 10a)	1. 品種は早～中生種を選定し早播の場合は、生育途中で青刈を組み合わせる。 2. 水田では酸性矯正、排水対策に留意する。	1. 基準量の外に堆肥1.5t～2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. 酸性に弱いのでPH矯正のため必要により苦土石灰を増施する。	1. 早播では、節間伸長期前やや高刈し、再生草でホールクローツプサイレージを調製する。 2. 糊熟期を目安に刈り取る。	1. サビ病が多発する恐れがあるときは、早目に刈り取る。	
	散播	8～10	基肥 追肥 早播で青刈後	10 6 (6)	15 —	10 5 (5)						
		播種時期										

作物名 えん麦（年内ホールクropp）

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病虫害・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
ホールクroppサイレージ	条播 45～60cm 散播	6～8	総量	10	15	10	12月中旬～2月 立毛貯蔵 1回刈 (4～6t/10a)	1. 品種は極早生種を選定する。 2. 初芽及び初期生育が重要。	1. 基準量の外に堆厩肥1.5t～2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. 酸性に弱いのでPH矯正のため必要により苦土石灰を増施する。	1. 乳熟期以降に達した時点で刈り取る。 2. 立毛貯蔵し2月位まで逐次刈りもできる。 3. 稈が中空であるため、サイレージ調製では細切りと踏圧を十分に行う。	1. 早播では、年によりサビ病の発生が見られる場合がある。
		8～10	基肥	10	15	10					
		播種時期									
		8月下旬～9月上旬									

作物名 イタリアンライグラス・えん麦混播

利用目的	播種方法	播種量 (kg/10a)	施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病害虫・雑草防除
			成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
サイ イ レ ー ジ ・ 乾 草 ・ 青 刈	散播 えん麦は、 条播も可	イタリアン 2～2・5 えん麦 6	総量	26	15	24	1 2月中 下旬 1 番草 えん麦 乳熟期 ～ 糊熟期 2 番草 イタリ ン 出穂期 3 番草 イタリ ン 出穂期 3 回刈 (8～10t /10a)	1. 9月上旬までに播種しないと年内のえん麦の子実収量は期待出来ない。 2. えん麦の品種は超極早生種または極早生種を選定する。 3. 散播は、イタリアンとえん麦を別に播種し、播種のムラがないように注意する。	1. 基準量の外に堆厩肥 1.5t～2t、苦土石灰 100kg程度を施用。 2. えん麦は酸性に弱いのでPH矯正のため必要により苦土石灰を増施する。 3. えん麦は過繁茂による倒節が懸念されるのでその恐れのある圃場では生育初期の追肥は施用しないこと。	1. 年内に乳熟期以降に達した場合に刈り取る。 2. 1 番刈はえん麦が大部分を占め、2 番刈以降はイタリアンライグラスとなる。	
			基肥	10	15	10					
			追肥	16	-	14					
			生育初期	(8)	(-)	(7)					
			1 回刈後	(8)	(-)	(7)					
	播種期間										
		8 月下旬 ～ 9 月上旬									